

pon

kanpi-sos



北海道

ポン カンピソシ

4

◆アイヌ文化紹介小冊子

チセ

住まい



本書のねらい

北海道立アイヌ民族文化研究センター※では、国連の定めた「世界の先住民の国際10年」※への取り組みの一環として、1995（平成7）年度より、アイヌ文化を紹介する小冊子を毎年1冊ずつ刊行しています。

これまでに、第1巻「イタク はなす」・第2巻「イミ 着る」・第3巻「イペ 食べる」の3冊を刊行し、ことば・衣服・食べものについて紹介してきました。

第4巻では「チセ」と題し、住まいについてとりあげました。家屋のつくりや使われ方などについて、図や写真を交えて説明します。また、復元された住居を見学できる施設や、アイヌの住まいについて学べる文献なども紹介しています。

※北海道立アイヌ民族文化研究センターは、2015（平成27）年4月より
旧・北海道開拓記念館と統合し「北海道博物館」となりました。

※国連が定めた「世界の先住民の国際10年」は1994年から2004年まで
です。なお国連は、2005年から2014年までを「第二次 世界の先住
民の国際10年」としました。

ポン カンピ ソシ
pon kanpi-sos → 小冊子
小さい 紙 束

チセ → 家、家屋
cise

目次

[1] アイヌの住まいの歴史	2
[2] 住まいのつくり	6
1 住まいのあらまし	6
2 土地と方向	11
3 つくりとしつらい	12
[3] 住まいについて学ぶために	29
1 見学できる施設・機関など	29
2 文献など	30

[1] アイヌの住まいの歴史

アイヌの住まいの歴史について、これまでにどのようなことがわかっているでしょうか。

下の絵（写真1）は、18世紀末から19世紀初めごろの文献に描かれているアイヌの家屋のようすです。これより古い時代の家屋については、遺跡の発掘などをとおして、柱の立て方、方向、大きさ、間取りなどがだんだん明らかになってきています。写真1の家と共に通する建て方は、もう200～300年ほど前から行われていたと推定できるようです。



写真1

The picture above describes an Ainu dwelling unit that was depicted in a work written between the end of the 18th century and the beginning of the 19th century. A series of excavations of ruins has contributed to the gradual understanding of the Ainu people's earlier dwelling systems. The building style used for dwellings similar to the one shown in the picture presumably was adopted from 200 to 300 years before the period when the literature was written.

The History of Ainu Dwellings

現在、博物館などでアイヌの家屋として展示されている建物は、だいたい20世紀の初めごろまでに建てられていたものを復元しようとしたものです。それらと写真1の文献のころの家屋とのあいだには、家のつくりにそれほど大きな違いはないようです。



写真2 復元されたカヤ葺きの家屋（アイヌ民族博物館）

アイヌ民族博物館は2018年3月に閉館しました。その跡地に2020年4月に「民族共生象徴空間」が開設される予定で、ここでも復元された家屋が設けられる計画です。

ここ100年あまりのあいだに、アイヌの住まいも大きく変化しました。現在、写真1のような家屋に住んでいる人はいません。そのときそのときの新しい工法によって建てられた一戸建てや集合住宅が、日常生活の場となっています。

Dwelling units exhibited today in museums are reconstructed models of those that were built until the beginning of the 20th century. There seem to be no major differences in style and design when comparing those units and the one in the picture contained in the aforementioned work.

The dwelling systems of the Ainu have changed dramatically as well as other aspects of Ainu life and units like the one in the picture on the page 2 are no longer resided in today. The Ainu lives either in a house or apartment built according to modern construction methods and design.

一方で、家の方向や間取りなどを決めるときに、アイヌ文化の中で伝えられてきた習わしや縁起の善し悪しを参考にすることも行われてきました。家を建てる前の儀式や新築の祝いを、アイヌのやり方で行うこともあります。儀式のときに使う大切な道具の置き場所などを、昔の間取りにならって決めている人もいます。また、ふだんはとくに意識しなくとも、伝統的な儀式を行う機会には、昔からのしきたりにならうかたちで、室内の空間の使い方や席順などを決めることが多いようです。



写真3 復元されたササ葺きの家屋（旭川市博物館分館）

However, traditional customs and teachings regarding good luck have been transmitted over the generations and on some occasions were taken into consideration when the decisions had to be made about such things as the facing direction of a house or room design. At times, rituals held prior to the building of a house and celebrations for the construction of a new house are conducted in Ainu traditional manner. Some choose the place for utensils and implements for ceremonial use in accordance with traditional room arrangement. Many Ainu seem to follow tradition when they arrange room space and decide seating order for traditional ceremonies, if not in everyday life.

観光や文化の紹介や研究のために、昔の家を復元して建てたりすることは、早くから行われてきました。近年、アイヌ伝統文化の復興・継承の気運が高まる中で、集会や儀式を行う建物に、儀式のための設備として炉などを備えることもしばしば行われるようになりました。

この小冊子では、こうした現代までのアイヌの住まいの歴史の中で、写真1の文献のころから今よりおよそ100年ほど前にかけて建てられた住まいを中心に説明します。



写真4 北海道立アイヌ総合センター（札幌市）の保存実習室

Reconstruction of old dwelling units has long been carried out for the purpose of tourism promotion and for the introduction and study of Ainu culture. In recent years, in response to a growing seriousness regarding aspirations for the restoration, preservation and transmission of Ainu traditional culture, consideration has been given to housing design so that units specifically designed for meetings and ceremonies often contain a hearth and other features for rituals.

This handbook focuses on the systems built during the period from the time of the literature that contains the picture on the page 2 until some 100 years ago. This is part of an effort to introduce the history of Ainu dwellings up to the present time.

[2] 住まいのつくり

1 住まいのあらまし

ひとくちにアイヌの住まいといつても、地域により、あるいはそれぞれの家により、さまざまな違いがあります。

よく見られたのは、大きな長方形の一室で中央部に炉があるものです。多くの場合、部屋の出入口の外側に玄関や物置などを兼ねた小屋をつけます。

大きさもさまざまですが、記録に残っているものでは、小さなもので約33m²（10坪ていど）、多くの人が集まるような家で約100m²（30坪ていど）だったようです。



写真5 カヤ葺きの家屋

1. Outline of Dwelling Systems

The design of Ainu housing systems differs depending upon the region of residence and individual household.

A unit with a single large rectangular room with a hearth around the center appears quite common. It often has a small building outside the doorway which was used as an entrance and for storage. The Ainu built units in a variety of sizes from the smallest at 33 square meters to a large 100 square meter unit used for meetings, according to the sources in the record.

Styles of Dwelling Systems

柱・屋根・壁・床の材料には、木の幹や枝、樹皮、カヤなどの草、などを用いました。その種類はさまざまですが、とくに壁や屋根を葺くために大量に必要なものは、その地域で手に入りやすいものが使われます。

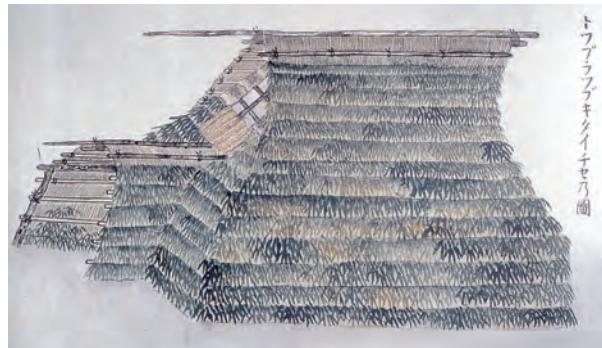


写真6 ササ葺きの家屋

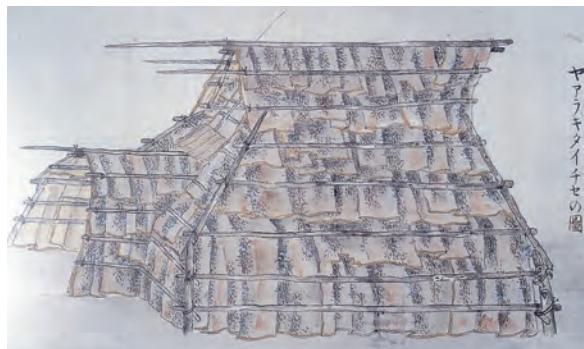


写真7 樹皮葺きの家屋

Materials for the posts, roof, walls and floor included trunks, branches and bark of various sorts and grass of some kinds. Large amounts of materials required to thatch the walls and roofs usually were procured from resources available locally.

屋根はたいてい下の左の図のようなかたちになっていますが、サハリン（樺太）などでは下の右の図のようなものも見られました。

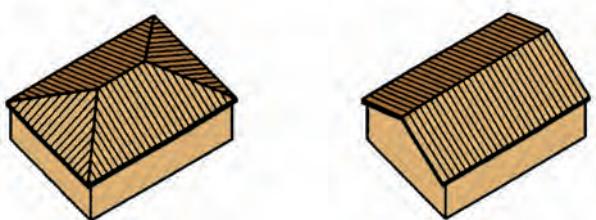


図1 屋根のかたち

サハリンや千島では、このほか、冬を過ごすための半地下式の家屋も用いられていました。これは、地面を掘り下げ、屋根に土を被せるというものです。

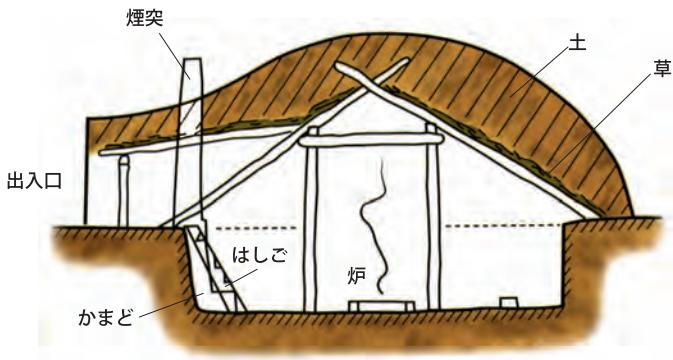


図2 半地下式の住まいの一例（断面図）

The roofing styles are drawn above. The hip roof shown on the left was most commonly employed while the gable roof on the right has been found in Sakhalin.

A semi-terrestrial unit was built as well for the winter climate in Sakhalin and the Kurils.

一つの家屋には一つの世帯が住むのがふつうでした。

新しく家を建てるのは、それまで住んでいた家が古くなったときや、新婚の夫婦のための住まいが必要になったときなどです。連れ合いを亡くしたお年寄りのために、子ども夫婦の住む近くに小ぶりな家を新築することもありました。

家を建てるときには、そこに住むことになる家族が働くほか、近所の人々が協力します。

新築した家は、材質や住み方にもよりますが、およそ20～30年か、場合によってはそれ以上住むことができたといわれています。

A dwelling unit was normally occupied by the members of one household.

A new unit was built for a newly wedded couple or when their house became old. A small unit was built for a single elderly parent in the proximity of his or her children.

The houses were built by the members of a family in collaboration with neighbors.

They are estimated to have endured for 20 to 30 years, or occasionally even longer depending upon the building materials used and the level of activity of a family.

「チセ」ということばについて

アイヌ語では、「家屋」のことを「チセ」といいます。このことばは、だいたいどの方言でも用いられてきました。

この「チセ」ということばは、これまでしばしば、とくに日本語の文章に取り入れられた場合に、かつてのカヤやササなどで葺いた家屋だけを指して使われることがありました。たとえば「今やチセに住んでいる人はいない」のような表現が、「今やカヤで葺いた家に住んでいる人はいない」などのような意味で使われることがありました。

しかしアイヌ語として考えた場合には、現代の新しい工法による家も、やはり「チセ」と表現することになります。じっさい、お年寄りにアイヌ語で会話をしていた中に、現代の家屋を指して「チセ」ということばが用いられている例があります。材料や工法が変わっても、アイヌ語にとって「チセ」つまり「家屋」に変わりはないのです。

"Cise"

In Ainu language, "*Cise*" means "House", and this has often been used even in the Japanese vernacular specifically referring to a thatched house which used to be built. However, the word "*Cise*" still exists in Ainu language to refer to the modern housing units. Despite the changes in the selection of materials and construction methods, "*Cise*" remains unchanged and still means a house in Ainu language.

2 土地と方向

家を新しく建てるときは、いろいろな条件を考えて土地を選びました。たとえば、きれいな飲み水が得られる、土地が乾いていて水はけがよい、土砂くずれや水害のおそれがない、食べものの調達にそれほど不便がない、などです。

地域によって、高い山の方、川の上流の方、日の出の方などが尊い方向とされるので、こうした方向を考えて家を建てました。

2. Site and Facing Direction

Various considerations were given in the course of selecting a site for a house: accessibility to clean drinkable water, food procurement, the presence of dry and well drained soil and a lower risk of a landslide or a flood.

The directions facing toward a high mountain, the upstream area of a river and the sunrise were considered sacred in respective regions and houses were built accordingly.

3 つくりとしつらい

ここではおもに北海道で建てられた住まいについて説明します。

① 主屋のつくり

柱などの骨組みには、堅い木が選ばれます。

屋根や壁は、カヤ・アシ・ササなどの草や、エゾマツなどの樹皮で葺きます。

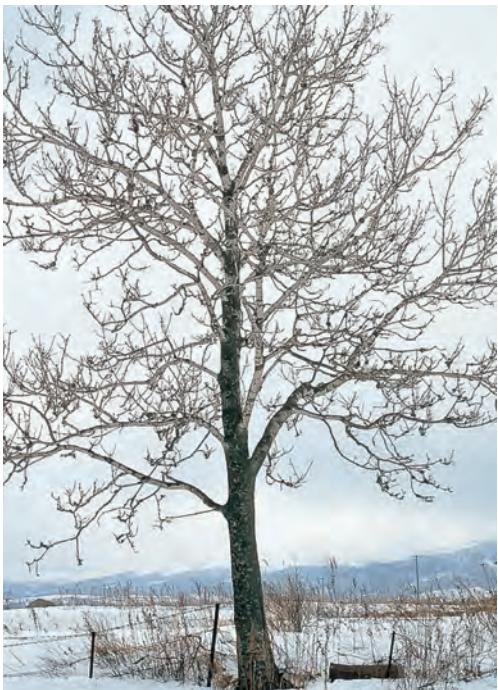


写真8
柱の材料として用いられる
ヤチダモの木

3. Structure and Finishing

Ainu's traditional dwelling systems often seen in Hokkaido are described as follows.

① Main Unit

Hardwood trees were chosen for posts and other structural materials in a unit, and roofs and walls were thatched with grass including reed or bamboo grass, and with the bark of the Japanese spruce.

骨組みや葺き材を結ぶ材料には、ブドウなどの蔓やシナノキの内皮などが用いられました。



写真9
ヤマブドウの蔓



写真10 シナノキの内皮でつくった縄

Grape vines and a skin of Japanese linden were used to bind the materials for structure and thatching.

柱は地面に埋め込んで立てます。

骨組みをつくるときは、二とおりのやり方があります。

ひとつは、屋根を地上で組んでから、それを柱の上に持ち上げる方法です。もうひとつは大きい家屋の場合などで、先に柱を立てて屋根を上でじかに組む方法です。

図3 屋根を組んでから持ち上げる方法の一例

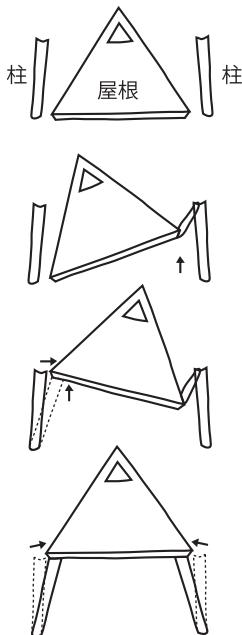


写真11 骨組みのようす（白老町：大正から昭和の初めごろ）

Posts are placed in holes dug into the ground.

Two different methods were applied for the building of a structure: either a roof truss was made already on the ground and lifted to the top ends of the posts or constructed above the posts in the case of building a big unit.

屋根の組み方のうち、よく知られているのは、屋根を支える枠に二つの三脚を結び付けるやり方です。これに他の材も渡して、屋根全体の枠組みをつくります。

図 4 屋根の組み方の一例



写真 12 骨組みの結び

In the well-known method of roof truss construction, two tripods were attached to the frame which supports the roof.

多くの場合、屋根と壁とは同じ材料で葺かれたようです。



写真13 カヤで屋根を葺いているようす

写真14





写真15 ササで壁を葺いているようす

Roofs and walls may have been thatched often with the same materials.

屋根の頂上部分の端に、煙を出す口を小さく開けておきます。採光を兼ねた天窓を
炉の上のあたりにつくるところもあります。



写真16 煙を出す口

A unit has a small opening on the edge of the rooftop to allow smoke to escape.
Some units have a skylight above the hearth to allow light to enter as well.



写真17 天窓（内側から屋根裏を見上げたようす）

儀式一家を建てる前・家を建ててから

建築にかかる前には、場所を占ったり、無事に作業できるよう神々に祈ったりします。

家ができるあがると、家の守り神をつくって部屋に置いたり、これから無事に暮らせるよう、神々に祈ったり魔よけをしたりします。また、親戚や近所の人びとを招いてお祝いが行われます。

※アイヌの伝統的な儀式や信仰については、この小冊子の第5巻「イノミ いのる」でくわしく紹介しています。

Religious rites are conducted for general safety and prevention of accidents during the construction, and the festivities were held together with relatives and neighbors when the house was built.

② 間取りと内装

部屋には、神々が出入りするとされる窓が設けられました。広く知られているのは、この窓を尊いとされる方向（→11ページ）へ向けるつくり方です。

この窓と、中央部の炉とのあいだの空間は、^{かみ}^ざとして尊ばれます。客がここに案内されることもあります。



写真18 宝物など大切なものが置かれた上座の様子（帯広市：大正の終わりごろ）

② Room Arrangement and Interior Finishing

One of the windows faces in a sacred direction according to well-known teachings.

Between this sacred window and the hearth around the center of a room is deemed the sacred space in the room.

上座から出入口の方を見て右の炉ばたは、その家のあるじたちの座とされました。左は、家族の座とも客の座ともなります。

図5 新ひだか町静内における間取りの一例

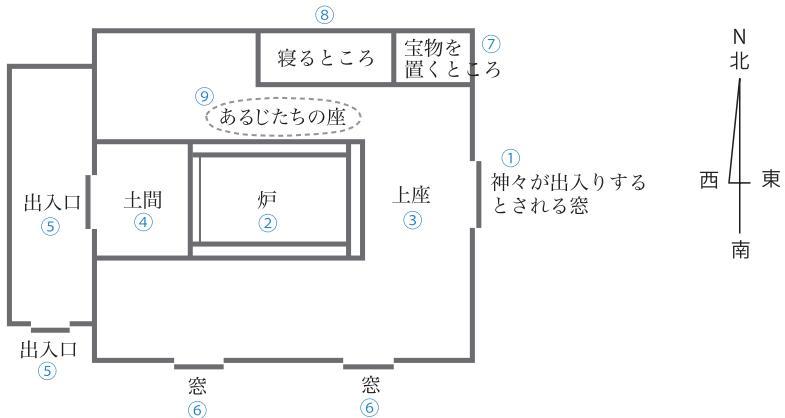
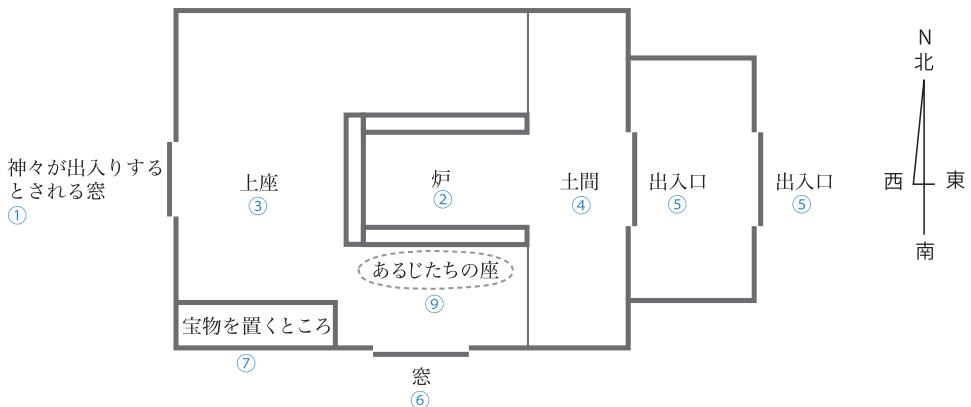


図6 帯広市（伏古）における間取りの一例



A type of room arrangement in Shizunai(above) and Obihiro(below):

- ① sacred window, ② hearth, ③ sacred space, ④ unfloored part of a house, ⑤ gateway,
- ⑥ window, ⑦ storage area for valuables, ⑧ sleeping area, ⑨ a space for heads of a family

多くの場合、出入口の外側に、玄関や物置などを兼ねた小屋を付けました。ここから外への出入口は、部屋への出入口と同じ向きだったり横向きだったりします。
部屋の内ではござを吊して仕切ったり、小部屋を増築したりすることもありました。



写真19 出入口の小屋と小部屋のある家

[◎ 出入り口に設けた小屋を外から写した写真はこちら](#)

床にはふつう、草などを敷きつめてすだれを載せ、その上にござなどを敷きます。

壁ぎわに床から少し高い台を設け、寝床をつくることもありました。

A unit often had a small building outside the doorway as an entrance and for storage.
In some cases, a room was divided by hanging a mat as a partition or a small room was added for more space.

Floor is covered with layers of grass, reed screens and matting.
A low platform was sometimes placed by the wall for a bed.

炉のつくり方はさまざまです。たとえば、地面を掘り、木の葉・砂利・火山灰の順に敷き入れる、という方法があります。

縁は、木の太い枠で囲みます。

炉の上座側の隅に木の台を埋め込み、そこでものを切る作業などをする場合もあります。

炉の上には火棚が設けられます。

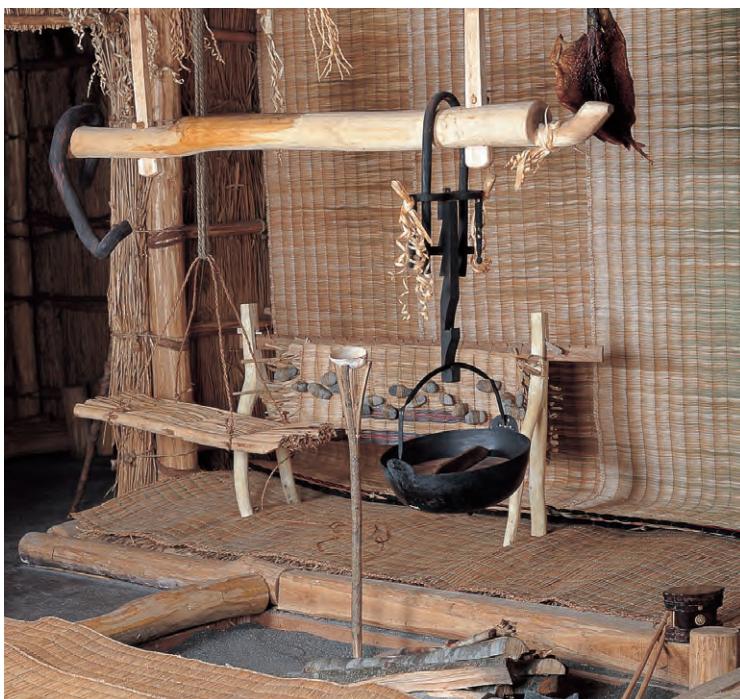


写真 20 復元された炉のようす

In one method of making a hearth, a hole is dug and then layers of leaves, gravel and volcanic ash are placed in that order, and finally a thick wooden frame is placed at the rim.
A rack is placed above the hearth.

内側の壁には、ござを張って仕上げるなどします。
窓や入り口には、すだれやござなどを下げたりします。

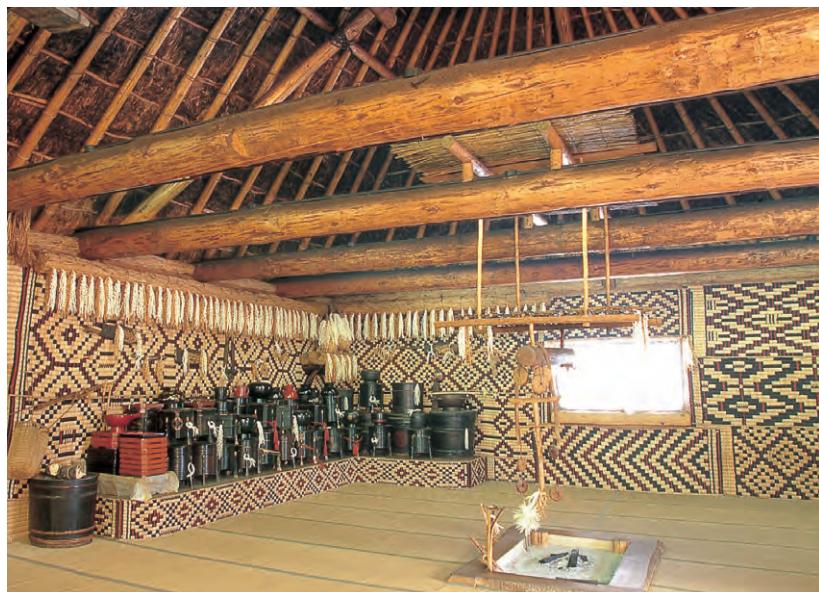


写真21 模様のついたござを上座の壁に張った室内のようす（アイヌ民族博物館）

※アイヌ民族博物館は2018年4月に閉館しました。その跡地に2020年4月に「民族共生象徴空間」が開設される予定で、ここでも復元された家屋が設けられる計画です。

The walls inside the room are occasionally finished with matting while the window or the doorway is sometimes finished with hanging reed screens or matting.

③ 灯りや水など

室内ではこのような灯りを用いることもありました。燃料には魚の油などを用います。



写真 22

図 7 ホタテ貝を使ってつくった灯り

煮炊きは、炉の火で行います。

水は、家の近くの沢水や湧き水や井戸水などを汲み、家の中の樽やかめに貯めておきました。

③ Light and Water

Fish oil was used in some cases as a fuel to provide light inside the room.

Dwellers cooked over the hearth. Water was brought from an adjacent stream, spring or well and stored in a cask or an earthenware pot inside the house.

④ 主屋の周辺

主屋の周りには、さいだん 祭壇や熊などの檻おり、倉などを設けることがあります。祭壇は、神々が出入りするとされる窓（→20ページ）の外側正面に設けます。



写真23 主屋の周りに祭壇や檻などが設けられているようす

④ Surroundings of A Main Unit

An altar, a cage for a bear and a storage area are in some cases located around the main unit. The altar for Ainu traditional rituals is placed facing the sacred window.

倉は高床になつていて、はしごで昇り降りします。



写真 24 倉（萱野茂二風谷アイヌ資料館）

便所は、男女別につくることもありますが、共用のこともあります。

The storage area has an elevated floor and a ladder was used.
Toilet is separated by sex if not otherwise shared.

家から少し離れたところに、ごみ捨て場を設けました。糠や炉の灰などはごみと別にすることもありました。

そのほか主屋の周りには、魚や肉などを干すための棚や竿、洗濯物を干すための竿などを設けることもありました。

風や雪をよけるために、カヤなどで垣を設けるところもありました。



写真25 家の周りのようす（帯広市：大正の終わりごろ）

In the proximity of the house, the waste disposal area was designated by some households, and rice bran and ash from the hearth were sometimes separated from the rest of the waste. Some dwellers used racks and rods for the drying of fish and meat and used rods for laundry.

[3] 住まいについて学ぶために

1 見学できる施設・機関など

博物館などで、昔のアイヌの家屋やその一部を復元しているところがいくつかあります。ここではその中からなるべく家屋全体のようすを復元しているものを中心に紹介します。



写真26
アイヌ民族博物館（白老町）

道内

- | | | |
|----------------------------|----------|--------------|
| ● 旭川市博物館（大雪クリスタルホール内） | 旭川市神楽 | 0166-69-2004 |
| ● 旭川市博物館分館 アイヌ文化の森 伝承のコタン | 鷹栖町字近文 | 0166-52-1541 |
| ● 川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町 | 0166-51-2461 |
| ● 札幌市アイヌ文化交流センター（ピリカコタン） | 札幌市南区 | 011-596-5961 |
| ● 北海道博物館 | 札幌市厚別区 | 011-898-0466 |
| ● 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 平取町字二風谷 | 01457-2-2892 |
| ● 萱野茂二風谷アイヌ資料館 | 平取町字二風谷 | 01457-2-3215 |
| ● ユーカラの里（のぼりべつクマ牧場内：5～10月） | 登別市登別温泉町 | 0143-84-2225 |
| ● 民族共生象徴空間 | 白老町 | 2020年4月開設予定 |

※区域内に「国立アイヌ民族博物館」のほか、復元された家屋が設けられる予定です。

道外

- | | | |
|--------------------------|--------|--------------|
| ● 国立民族学博物館（千里万博公園内） | 大阪府吹田市 | 06-6876-2151 |
| ● 公益財団法人大阪人権博物館 リバティおおさか | 大阪府大阪市 | 06-6561-5891 |
| ● 野外民族博物館 リトルワールド | 愛知県犬山市 | 0568-62-5611 |

※アイヌ文化に関する資料を展示している博物館などを紹介したパンフレットとして、公益財団法人アイヌ民族文化財団から『ふれてみようアイヌ文化』が出版されています。同財団のホームページからPDFで閲覧できます。英語版・ハングル版・中国語（繁体・簡体）版もあります。

2 文献など

アイヌの住まいについて学ぶことのできる文献やビデオなどの紹介です。現在も市販されているものには価格を記しました。

① 文献 〈概説書・研究書〉

- 財団法人アイヌ民族博物館(監修)『アイヌ文化の基礎知識』草風館 1993年 1,600円(税別)
- 萱野茂(文)・須藤功(写真)『チセ・ア・カラ』未来社 1976年

*実際に建物をつくっていくようすを、写真と解説文でたどることができます。

- 財団法人アイヌ民族博物館(編)『伝承事業報告書 ポロチセの建築儀礼』財団法人アイヌ民族博物館 2000年 2,100円(税別)
- 財団法人アイヌ民族博物館(編)『アイヌのすまいチセを考える』財団法人アイヌ民族博物館 1998年 1,200円(税別)

*白老町のアイヌ民族博物館が1996～97年に行った家屋の復元建築についての、建築に関わる儀礼の報告書と、建築過程に関する報告などが行われたシンポジウムの記録集です。

なお、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構による『アイヌ生活文化再現マニュアル 建てる 祖先の時代のチセづくり』(2000年:図書と映像資料がセットになっています)は、同博物館が1998年に行った家屋の復元建築の記録をもとに作成されたものです。



② 映画・ビデオ

- 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会(編)『アイヌ文化を学ぶ THE CULTURE OF AINU』VHSビデオ30分 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会 1997年(1994年に作成されたものの2か国語版)
- グループ現代『チセ・ア・カラ われらいえをつくる』カラー16mm 57分 一般社団法人民族文化映像研究所(070-6565-2305) 1974年

*前掲の文献『チセ・ア・カラ』に取り上げられている家屋を建てていくようすを映画にしたものです。DVDでの貸出については、一般社団法人民族文化映像研究所にメールでお問い合わせください(あて先: minneiken@alpha.ocn.ne.jp)。

- 『アイヌ文化伝承記録ビデオ大全集』財団法人アイヌ無形文化伝承保存会
1976(昭和51)年から2003(平成15)年までに制作された、全7シリーズ33巻のビデオ映画です。各巻ごとに、さまざまなテーマでアイヌの伝統文化を紹介しています。この中の「アイヌの住居と暮らし チセの建て替え」や「釧路川・アイヌの祭事」「沙流日誌・シリムカの里」「石狩川・アイヌの食べもの」「ラッチャコ・アシリチエブ・シリキ」などで、復元家屋の建築の記録や家屋の中のようすなどを見ることができます。全シリーズの映像などから抜粋して制作されたDVDビデオ『アイヌ文化～ことば・語り・祈りの世界から～』もあります。

*財団法人アイヌ無形文化伝承保存会は2007(平成19)年度末をもって解散しました。
同会が制作した視聴覚資料についての問い合わせの窓口は、公益社団法人北海道アイヌ協会(011-221-0462)となっています。

その他本書を書くにあたっての参考文献

- 内田祐一「帶広・伏古におけるチセと附属施設について」アイヌ民族博物館(編)『アイヌ民族博物館研究報告』第2号 財団法人自老民族文化伝承保存財団 1989年
- 鷹部屋福平『アイヌの住居』彰國社 1943年
- 山本祐弘『樺太アイヌの住居』相模書房 1943年
- 久保寺逸彦「アイヌの建築儀礼について」北海道大学文学部附属北方文化研究施設(編)『北方文化研究』第3号 北海道大学 1968年

*アイヌ語やアイヌ文化に関する学習のための図書や視聴覚資料、博物館等の施設については、『アイヌ文化紹介小冊子10 総集編』(2005年)でも紹介しています。

-
- 北海道教育庁社会教育部文化課／北海道教育庁生涯学習部文化課（編）『アイヌ民俗文化財調査報告書（アイヌ民俗調査）』1～17北海道教育委員会 1982～1998年
 - 静内町教育委員会（編）『静内町アイヌ民俗資料館』静内町 1984年（1997年より改訂版『静内地方のアイヌ文化』）
 - 萱野茂『アイヌの民具』すずさわ書店 1978年
 - 鷹部屋福平／高倉新一郎／犬飼哲夫「住居」アイヌ文化保存対策協議会（編）『アイヌ民族誌』第一法規出版 1969年
 - 高倉新一郎「アイヌ家屋の調査」北海道教育委員会（編）『アイヌ民俗資料調査報告』北海道教育委員会 1968年

●協力

公益財団法人アイヌ民族文化財団／旭川市博物館／帯広市図書館／帯広百年記念館
萱野茂二風谷アイヌ資料館／斜里町立知床博物館／公益社団法人北海道アイヌ協会

●写真提供、出典等（敬称略）

表紙：中川潤

写真1：『蝦夷島奇観』（復刻版 佐々木利和、谷澤尚一研究解説）雄峰社

写真9, 10, 11, 13, 14, 26：公益財団法人アイヌ民族文化財団

写真3,15, 17：旭川市博物館

写真4, 22：公益社団法人北海道アイヌ協会

写真5, 6, 7, 19：『蝦夷生計図説』（復刻版河野本道、谷澤尚一研究解説）北海道出版企画センター

写真8：斜里町立知床博物館

写真18, 25：帯広市図書館、帯広百年記念館

図2：山本祐弘『樺太アイヌの住居』をもとに作図

図3, 4：高倉新一郎『アイヌ家屋の調査』をもとに作図

上記以外の写真は北海道博物館所蔵写真

- ◆発行—平成11年3月（2刷 平成23年2月）
 (3刷 平成29年7月)
 (4刷 平成31年3月)
- ◆編集—北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター
 AINU CULTURE RESEARCH CENTER, HOKKAIDO MUSEUM

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
 TEL.011-898-0456 FAX.011-898-2657

<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/> (北海道博物館)





出入り口の小屋を外から写した写真です。
ゴザを編む道具や臼などが置かれているようすがわかります。
(撮影は1934年、場所は平取と考えられます)

戻る